



平成 30 年 7 月 22 日（日）尾西生涯学習センターにて  
「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」  
「くすり教室：実験講座」を開催：一宮市薬剤師会との共同企画

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生にも「くすり」や「薬物依存」のことを知ってもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。今年度は名城大学 Enjoy Learning プロジェクト（通称：E プロ）の薬学生と共に行うことになりました。

一宮市薬剤師会会長 濱崎光哲先生、理事 原 明美先生、および一宮市教育委員会教育長 中野和雄先生のご尽力により、一宮市薬剤師会、一宮市教育委員会との共同企画として、平成 30 年 7 月 22 日（日）、尾西生涯学習センターにて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」を下記の内容にて開催しました。午前中には名城大学薬学部 間宮隆吉准教授（NPO J-DO 理事）、および本学部 5、6 年生（6 名）が、一宮市薬剤師会の薬剤師（28 名）に対して講義内容や実験手順の説明と実演を行いました。当日は、小学生 3～6 年生 146 名が「くすり」について学び、いろんなことを知れてとても楽しかったと大好評でした。

E プロとしては 2 回目の開催となりました。

————— 尾西生涯学習センターにおける「くすり教室」 —————

日時：平成 30 年 7 月 22 日（日）14 時 00 分～16 時 00 分

場所：尾西生涯学習センター 6 階大ホール内容：

- ・「実験を始める前のお話」：Q&A 方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、Q&A 方式で小学生が答える、児童参加型で行いました。一宮薬剤師会の川崎光代先生がスライドを使ってわかりやすく説明し、小学生が元気よく挙手して活発に問い掛けに答えてくれました。

- ・「体験実験」

内容をより理解できるように小学生は、学年毎に 24 班（1 班 6～7 名）に分かれ、一宮市薬剤師会の薬剤師および薬学生（薬品作用学研究室・E プロ 5 年生 3 名、病態解析学 I・E プロ 6 年生 2 名、5 年生 4 名、および衛生化学研究室アドバンスト学生・E プロ 6 年生 1 名）の補助・解説を受けながら体験実験を行いました。

<実験項目>

1. コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」をのむのはなぜ？
2. 水がなくても飲める薬があるのを知ってる？
3. 「くすり」を「お茶」で飲むとどうになってしまうの？
4. 「うがいぐすり」でうがいした後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

制作：名城大学薬学部 病態解析学 I・E プロ（林 千裕、中村真理子、武藤利奈、野田幸裕）、薬品作用学（間宮隆吉）、衛生化学・E プロ（高木修平）  
監修：NPO J-DO

